

Socially Engaged Art

社会を動かすアートの新潮流

2017/2/18 [Sat.] 14:00-16:00

オープニング記念講演

ペドロ・レイエス「アートと武装解除：《銃をシャベルに》の背景」

Special Lecture - Pedro Reyes "Art and Disarmament"

会場 Arts Chiyoda 3331 (1階 ギャラリー B / 1F, Gallery B)
定員 20名 (先着順 事前申し込み不要) ※ 通訳付き
参加費 無料 (メインギャラリーの展覧会を鑑賞される方は、入場券が必要です)



ペドロ・レイエス《銃をシャベルに》2007年、リヨン・ビエンナーレ (2009年)
Pedro Reyes, Palas por Pistolas [Shovels for Guns], 2007
Installation view courtesy of Biennale de Lyon, 2009. Photo: © Stephane Rambaud



回収された銃 (2007年)

本展に出品されている《銃をシャベルに》は、2008年から継続するSEAの代表的プロジェクトのひとつ。メキシコ出身のレイエスは、麻薬取引の拠点で発砲事件の絶えない同国の街クリアカンで、市民から銃を回収し、集まった銃を熔解してシャベルをつくり、世界各地で植樹と展示を行ってきた。「自分にとってアートとは本質的にネガティブなものをポジティブなものに変える方法を見つけることであり、社会や人々の意識を変えるような作品を作りたい」と語るように、レクチャーでは、アートのちからで武器のない社会をめざすレイエスの思想や近年の活動をきく。トランプ大統領の就任で揺れる国際社会への言及も注目。



ペドロ・レイエス
Pedro Reyes

1972年、メキシコ・シティ生まれ。メキシコを拠点に、彫刻、絵画、音楽、パフォーマンスと多様な領域で活動する。代表作の《ピストルをシャベルに》は、2008年から継続するSEAの代表的プロジェクトのひとつ。麻薬取引の拠点で発砲事件の絶えないメキシコの街クリアカンで、銃を回収するキャンペーンを行い、集まった銃を熔解してシャベルをつくり、世界各地で植樹と展示を行う作品。「自分にとってアートとは本質的にネガティブなものをポジティブなものに変える方法を見つけることであり、社会や人々の意識を変えるような作品を作りたい」と語っている。

今後のレクチャー・シリーズ

- 2/19(Sun.) トークセッション「都市=わたしたちの場所」
登壇者：パーク・フィクション、藤元明、笠置秀紀 (ミリメーター)
- 2/24(Fri.) MDRの参加型パフォーマンスは「社会の鍼治療」
登壇者：ダレン・オドネル (ママリアン・ダイビング・リフレックス [MDR] 芸術ディレクター)
- 2/26(Sun.) 「アイ・ウェイウェイの新作《ライフジャケットの輪》とその背景」
講師：片岡真実 (森美術館チーフキュレーター)、インタビュー：村尾信尚 (NEWS ZERO メーンキャスター、関西学院大学教授)
- 3/2(Thu.) フィフス・シーズン
登壇者：エスター・フォセン (フィフス・シーズン：ディレクター)、ウイルコ・タウン (ビューティフル・ディストレス設立者/精神科医)、アーカス・プロジェクト、岡田聡 (精神科医/アートコレクター)